

コミュニティひばり環境部会講演会報告

演 題：緑でつくる“住みたいまち”

講 師：赤澤宏樹様 兵庫県立大学教授 宝塚市景観審議会委員

日 時：2月26日（土）10時～12時

場 所：コミュニティセンター（環境部会員のみに限定）、ZOOMによるオンライン

出席者：会場参加者 10名 ZOOM参加者 7名

配布資料：「緑でつくる“住みたいまち”」（注：ブログでは非公開）

1. “住みたいまち”ってどんなの？

- ・住みやすさの指標として、次の6点があるとされた。

(1)景観の改善・向上 (2)自然・文化・歴史遺産 (3)環境配慮、
(4)コミュニティの参画・協働 (5)将来計画 (6)健全なライフスタイル

将来計画を考えると、最初に計画した人は楽しくても途中から入ってくる人は考え方が違う事を理解し、やりたい事を書くのではなく計画に余白を作っておくことが大切である。

2. 公園がある効果（公園があるからいい）は3つある

(1)存在効果（防災、生物多様性の持続的な利用など）
(2)利用効果（スポーツ、レクリエーション、市民農園など）
(3)媒体効果（安全安心な野外空間、家族間交流など）

- ・都市公園はこれまで「児童公園」として設置されてきた。児童の利用に限らず日常的な利用に供されるものであることから、最も身近な公園として機能を発揮できるように「街区公園」と改められた。建設省都市局長通知(平成5年)

「児童公園」

3種の神器（ブランコ、滑り台、ジャングルジム）が設置され、周りがビルばかり、花壇があるのに水道がない、日陰もない公園だった。

↓

「街区公園」

いろんな人がいろんな事をしたい公園に変えていく。

時間帯によって公園の使い分けを考える。

地域の合意により、とりあえず使う人が使いやすい公園に変える。

例えば：

木々に囲まれた空間や草刈頻度を少なくして自然な植生にする。

遊具の塗り替えを自分たちでする。費用のかからない手作りベンチ、費用の安い布製植木鉢を工夫して花一杯の公園や家庭菜園にする。

3. 自分たちからまちを良くする

- ・都市のサービスが「めっちゃいい所にみんな集める」から「好きな所で好きなことをするためにいろんな機会を作る。」に変わってきた。
大きなイベントで参加者が多いことに意義を感じなくてもいい。大きなイベントで人が集まらなくても失敗とは限らない。
- ・まちの空間が混ざってきた。
公的な空間（公園、緑地）で私的な活動（例：公園の花壇で草花を育てる。）
私的な空間（窓辺）で公的な活動（例：道路に面した窓辺に花を飾る。）
ご近所さんで景観を作る。（例：塀越しの緑を守る。パツンパツン街路樹の根元に花を植える。ウオーキングの時にペットボトルで水やりをする。）

4. 住みたいまちをつくる協働

- ・協働によってまちの新しい質を生み出す。
立場や活動は異なるが同じ目的「やりたいこと」に協力し活動をつなげていくことが大切である。やりたい事をつなげていくことができるのが、“住みたいまち”ではないか？
- ・多様な緑を生み出す「公共性」
公共とは公的で共通の活動のみならず、新しく参加する人に新しい事を行う機会を提供することも含む。緑に限定しないで他の活動の中に緑を組み込む。
やっている活動を紹介する方法として「活動をやった後広報」がある。
こんな事をして多くの方が楽しんでくださったなど、やった後で活動内容を写真などで広報すると、活動もわかりやすく次への参加につなげていけるのではないか。

意見交換

Q：桜の街路樹の根上がり

A：ソメイヨシノを植栽した時の状態が悪くて 根の行き場がなくなり横に張ってしまったのでは？土の面を多くすると根上がりしないが、植えた時の状態にも関係する。

Q：塀から道路や隣家に出た枝について

A：景観法による規制で「どこまではみ出させるか？」、逆に「はみ出ているからいい」という見方もある。地域でどのように許容するか話し合う。

Q：コンクリート法面の緑化

A：法面の緑化は出来る所と出来ないところがある。出来る所は、例えばヒメイタビカズラを這わせるなどの方法があることを紹介するのも良い。

Q：落ち葉問題

A：街路樹の前の家の人とそうでない人は感じ方が違う。良いことだ、悪いことだと決めつけしないで徐々にやっていくのがいい。

Q：緑に関心をもってもらうにはどうしたらいいのか？

A：緑だけの活動はしない。緑のある場所で福祉活動や子供活動、体操などをする。その中で緑の良さを少しずつ紹介する。期待しすぎないでゆっくり長く続けていく。

参加者の感想

(1)

一番印象に残ったのは東灘区深江地区のまちづくりと緑地計画でした。

一過性に大きなイベントを行うより、自治会や老人施設、保育施設などへのプログラムの提供や園芸好きな人をつなぐコーディネートなど地道な活動が続ける事が住みよい街を作る秘訣なのかもしれません。

あと、「参加者が少なくても気にせず、継続することが大事。」という先生の言葉に励まされました。「別のイベントと合同で行うなど参加者をコアな層に限定しないことも大事。」という視点は大切だと思いました。地域の人だけでなく、幼稚園とも合同で花植え会を行っている雲雀丘山手自治会は先見の明がありますね。

(2)

手をかけるだけが緑やまちづくりではなく、手を抜くことも草花や木を自然に育てていく環境づくりには大切だと教えていただき、肩に入っていた力が抜けました。まちにある緑や風景は時間とともにつくられていくもの。力まず少し力を抜いて、人の手のかけ具合も良い加減で緑と向き合うことが大切だと気づかせていただきました。

(3)

赤澤先生の講演は先生のお話がとても楽しい講演でした

レジメの中の景観を作る領域に私的空間が半公的領域として含まれていることに気がつかされました。今の時代は公的領域にはなかなか手を出しにくいですが、せめて半公的領域だけでも個人が整備すれば、景観は良好に保たれると思いました

(4)

解りやすいことばと内容で先生の温かなお人柄の伝わるよい講演会でした。

みどり環境の良さは誰も否定しないことですが、現実に進んでいく難しさを先生は充分にわかっておいでで、理論で攻めるのではなくいかにさりげなく優しく広めていくかを示唆して下さいました。

「みどり」を前面に出すのではなく、いつのまにか「みどり」のありがたさや大切さに気がつくような活動が続けることなのだとあらためて思いました。

以上